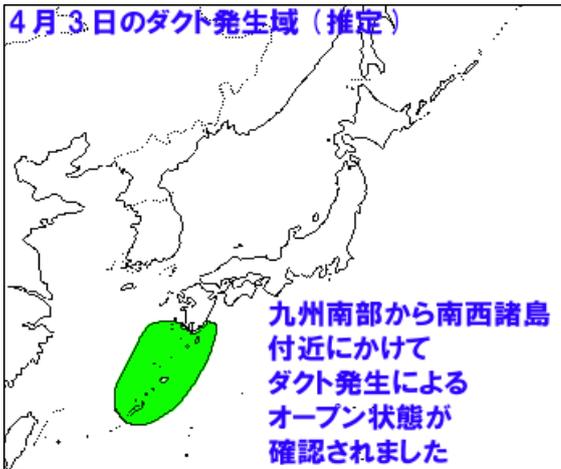


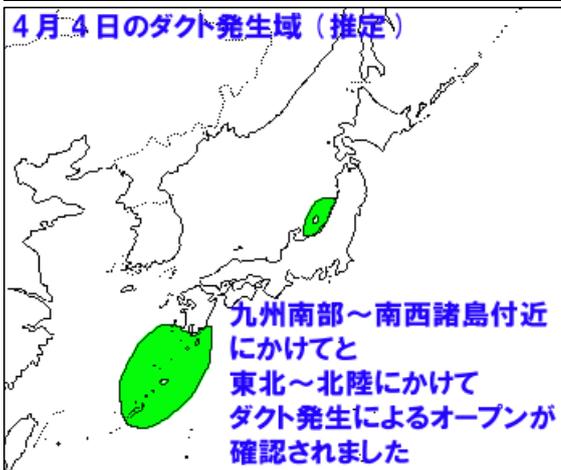
6エリアオープン情報と7~0エリアオープン情報

2006年 4月 3日 ~ 4月 4日 JG0TEV 中村

4/3は九州南部～南西諸島にかけて、4/4は九州南部～南西諸島にかけてと秋田県～新潟県付近の沿岸でダクト発生によるオープン状態が確認されました。



JM6WRH平さんからの情報・・・
 3日も南九州から奄美間のコンディションは良く南薩摩市(旧指宿市の9・54のリピータ)と宮崎の9・96(串間市のリピータ)がMH(モービルホイップ)で59(ノンプリ)で入感
 4日に交信した沖縄のうるま市固定局の方が私が3日に9・54の南薩摩市とのリピータでの交信を聞いていたとの事



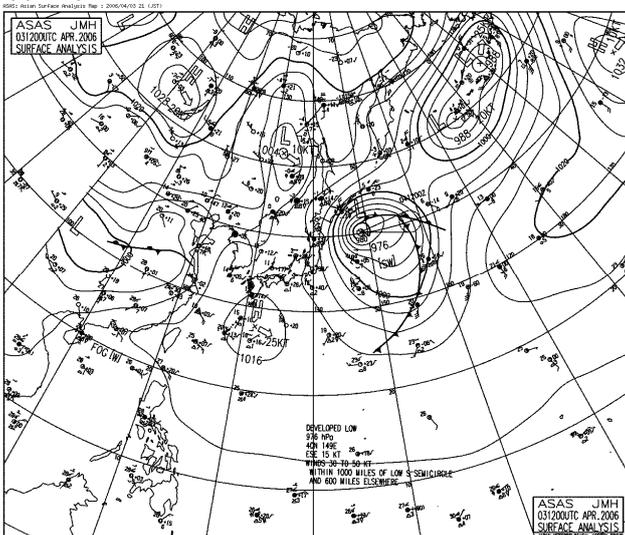
JM6WRH平さんからの情報・・・
 09:53 JR6UAM(沖縄・うるま市)-JM6WRH(鹿児島・奄美市モービル) RS59+ - 59+ 430FM
 JR6UAM局 18EL x 2 / JM6WRH局 モービルホイップ 20W
 22:22 J071ZC(秋田県にかほ市)-JG0TEV/O(新潟県長岡市) RS55 -55 430FM
 JG0TEVはモービルホイップ 10W

気象解析

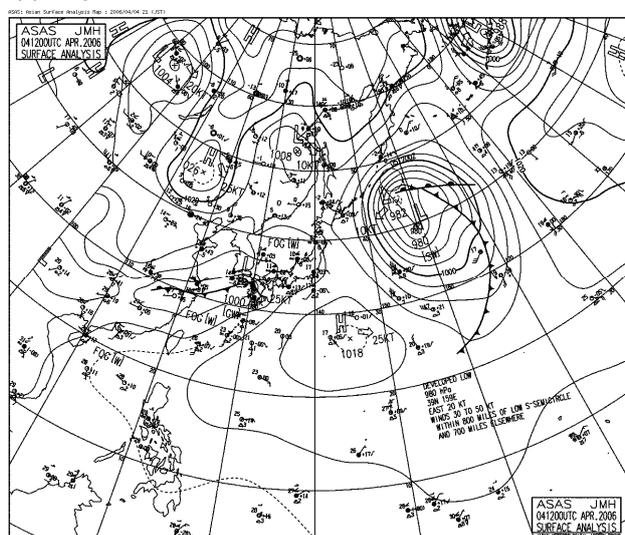
地上天気図から3日から4日にかけて、南西諸島から本州の南海上を移動性高気圧地が勢力を強めながら東進していたことがわかります。

地上天気図

3日21時

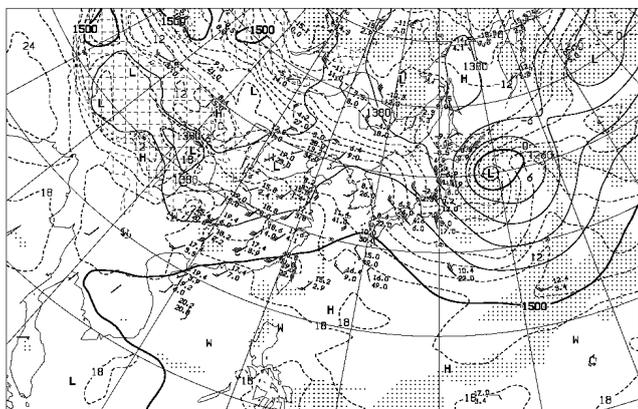


4日21時



850hpa面解析図から本州の南海上から日本海にかけてはリッジになっていたことがわかります。これは中層大気の500hpa面でも同様の傾向で、東日本から西日本にかけての広い範囲で高度の上昇、負渦度領域の広がり確認できます。高気圧の勢力が強まっている中で、700hpa面鉛直流は上昇流域が卓越していますが、これは下層大気の気温上昇に伴ったものと判断します。

850hpa面高度・気温・湿数
3日21時

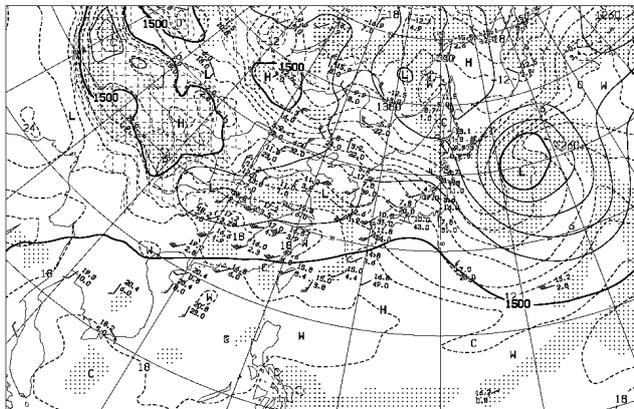


ANALYSIS 850hPa: HEIGHT(M), TEMP(°C), WET AREA:(T-TD<3°C)

AUPQ78 031200UTC APR 2006

Japan Meteorological Agency

4日21時



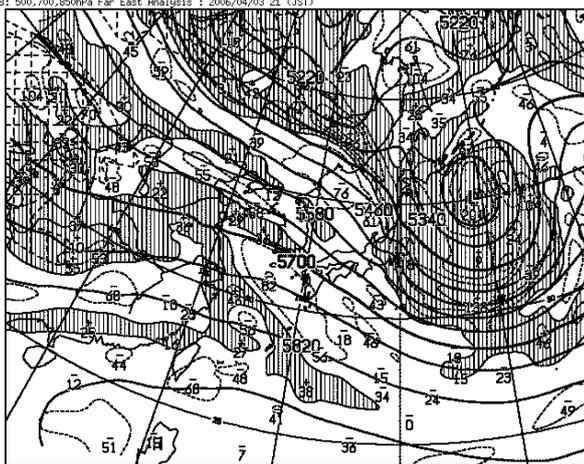
ANALYSIS 850hPa: HEIGHT(M), TEMP(°C), WET AREA:(T-TD<3°C)

AUPQ78 040000UTC APR 2006

Japan Meteorological Agency

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
3日21時

RJFE578: 500,700,850hPa Far East Analysis : 2006/04/03 21 (JST)

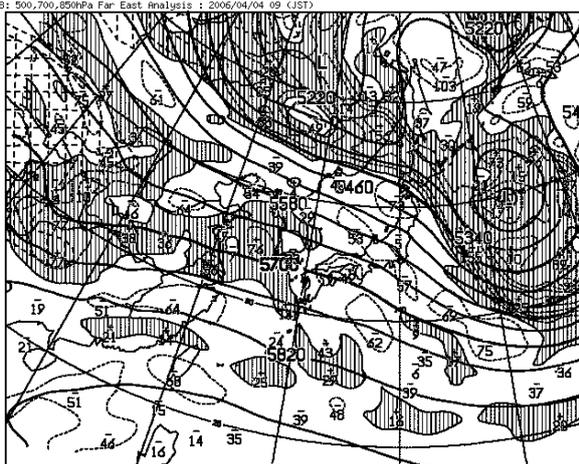


T=00

HEIGHT(H), VORT(10⁻⁶/SEC) AT 500hPa

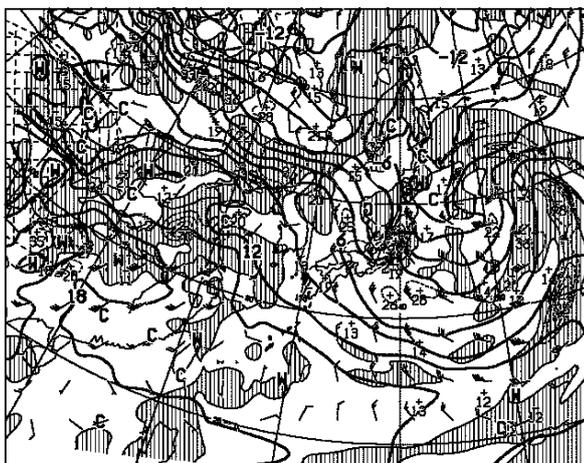
4日21時

RJFE578: 500,700,850hPa Far East Analysis : 2006/04/04 09 (JST)



T=00

HEIGHT(H), VORT(10⁻⁶/SEC) AT 500hPa

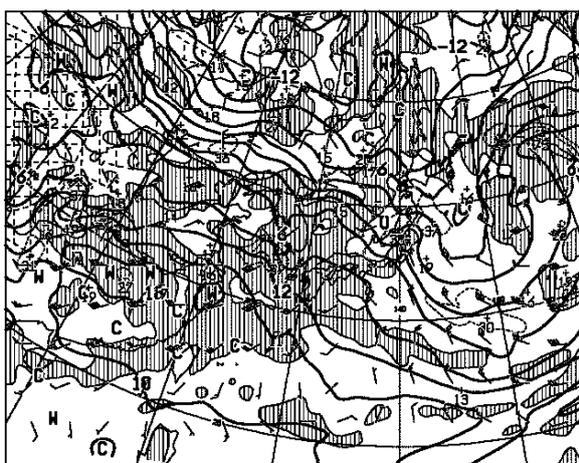


T=00

TEMP(C), WIND VECTOR AT 850hPa
P-VEL(hPa/h) AT 700hPa

AXFE578 031200UTC APR 2006

Japan Meteorological Agency



T=00

TEMP(C), WIND VECTOR AT 850hPa
P-VEL(hPa/h) AT 700hPa

AXFE578 040000UTC APR 2006

Japan Meteorological Agency

以上から、ダクト形成条件がそろいやすい状態であったものと判断します。

3日・・・ 南西諸島付近を中心に高気圧に伴う高度の上昇、乾燥空気、下降流域、負渦度領域に覆われ、ダクト発生条件がそろいやすかったと推定。

4日・・・ 南西諸島では高気圧に覆われていた午前中を中心に乾燥空気、負渦度領域に覆われダクト発生条件がそろいやすかったと推定。

【参考】 赤外線雲画像

